Ⅲ 授業づくり
～児童生徒の特性に応じた支援を取り入れ、学びを保障しましょう～

分かりやすい授業の構成を工夫する

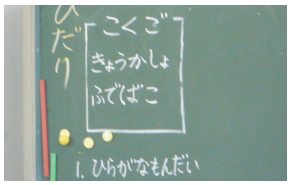
特別な支援を必要とする児童生徒は、状況に応じて臨機応変に対応したり、先の見通しを持ったりすることが苦手な場合があります。

児童生徒が目標やめあてを持ち、主体的に学習に取り組むことができるように、児童生徒の特性に応じた支援を取り入れることが大切です。

【導入や展開の工夫】

○授業の準備の仕方を示す

- 学習に必要な準備物や準備の仕方を具体的に示す。



〈国語（小学校低学年）〉
視覚的に提示しておくと、自分で確認することができます。

○授業の始め方や注意を引きつける導入を工夫する

- 「おもしろそう」「できそう」「やってみよう」と意欲を高めたり、注意・集中を促したりして、児童生徒が学習に向かう姿勢をつくる。

【導入時の参考例】

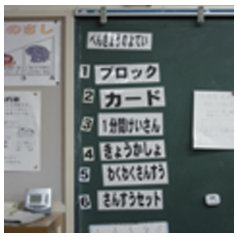
- 復習のための小テスト、フラッシュカードによる一斉音読、「○×クイズ」等で注意・集中を促す。
- 絵や写真、映像等を活用し、意欲を高める。
- 児童生徒の興味・関心、生活との関連性がある活動や話題等を取り入れる。

○教科の特性に応じて、授業の流れをパターン化したり活動の始めと終わりを示したりする

- 学習のねらいや見通しを明確にするために、カードや小黒板等の視覚支援を効果的に取り入れる。

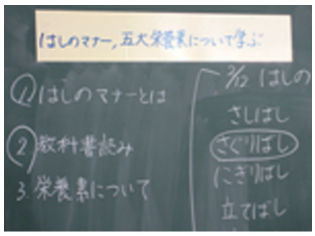
  (例) 音読 → ワークシート → 発表 → まとめ
  問題提示 → 自力解決 → 練り上げ → 振り返り
- タイマーやカード等を活用し、活動の始めと終わりを明確にする。

〈算数の学習（小学校低学年）〉



カードで１時間のスケジュールを提示しています。また、タイマー（写真内右下）を活用し、活動の区切りを示しています。

〈家庭科の学習（中学校）〉



スケジュールを提示し、終わった活動には○をつけています。

授業の展開における具体的な支援や配慮を工夫する

特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応するために、言語環境の整備、効果的な机間指導、主体的に取り組めるよう工夫した教材・教具等、学年に応じて個への配慮を一斉授業の中に取り入れていくことが必要です。

学習目標を達成し、「できた」「分かった」という成就感や満足感を持つことができるように授業の展開における工夫改善に努め、児童生徒一人一人の特性に応じて、必要な支援を行っていくことが大切です。

指示や発問

分かりやすい説明や指示は、「今何をするのか」や「今何を考えるのか」を明確にし、児童生徒の学ぶ意欲を高めることにつながる。視覚支援等を効果的に活用し、児童生徒が理解しやすいような伝え方や適切な話し方に努める。

○一斉授業における配慮

- 話す前に見通しを示す。
- 具体的な言葉を使う。
- 指示は一つずつ出す。
- 指示と併せてモデルを示す。
- 活動や作業を止めたり、話す人や黒板等に注目させたりして、聞く姿勢を整えてから指示や発問をする。

○個の特性に応じた支援例

【聞いて理解することへの支援】

○見通しを明確にする
- 「これから３つのことを話します」「○○について話します」と、事前に予告する。

○聞く姿勢の習慣化を図る
- 人の話を聞く時は「話す人の顔を見て」「おへそを向けて」等を合い言葉にする。

○具体的な言葉で伝える
- 「ちゃんと」「きちんと」ではなく、「はねに気をつけて書きましょう」「目を見て聞きましょう」等、具体的に示す。
- 「あれ」「それ」「向こう」ではなく、目印や方向を示す。

○聞いた言葉や内容を理解しやすくする
- 絵や写真等を併用する。
- 大事な言葉やキーワードを提示する。（小黒板やカード等の活用）

○聞くべき音や話に集中できる環境をつくる
- 座席の位置を配慮する。

○記憶を助ける
- 指示を復唱する。
- メモの取り方を指導する。
- 指示や発問の内容を板書したり、カードで示したりする。

板　書

板書は学習中の視覚的な手がかりとなる。学習の見通しを示したり、内容の確認を行ったり、記憶を助けたりするものとなるので、見やすさに配慮した板書を行う。

○一斉授業における配慮

- 見やすい大きさの文字で書く。
- 色チョークを活用し、活用の仕方を決めておく。
- 短冊黒板や小黒板を児童生徒の発表等の場面に活用する。
- 黒板を分割して使い、学習の流れを示す。
- 重要な用語にふりがなをつけたり、大切な箇所を分かりやすく示したりする。

机 間 指 導

児童生徒一人一人に対して授業の理解度を評価しながら、できていることを認めたり、つまずきに対する適切な支援を行ったりする貴重な機会として机間指導を行う。

一斉指導の中で机間指導による個の特性に応じた支援を行うためには、理解の速い児童生徒に対応するための課題の準備をしておくことにも配慮する。

○一斉授業における配慮

- ノートやワークシートに称賛の言葉や印をつける。
- 活動の流れや指示が理解できていない時に、個別に再確認したり、メモで示したりする。

○個の特性に応じた支援例

【話すことへの支援】
- ワークシートに書いている内容を自信を持って発表できるように、よいところをほめる。
- 話し方のキーワード「いつ」「どこで」「何を」等の話型を示す。
- 児童生徒の考えや思いを聞き取り、発表内容を整理する。（メモの活用等）

【読むことへの支援】
- 読むところを指で押さえたり、定規等を行に当てて読んだりする方法を教える。

【書くことへの支援】
- 正確に板書をノート等に記録することが苦手な児童生徒の手元に、板書内容の重要な箇所を書いたメモを置く。
- 文字の書き方のコツ「語呂合わせ」「形をイメージするヒント」を繰り返し示す。

教材・教具

児童生徒が意欲的に学習に取り組み、学習目標を達成することができるように、教材研究を進めていく。

適切な教材･教具を準備し活用することで、分かりやすさや集中力を高めることにつなげるとともに、具体的な操作活動の充実や、成功体験を大切にした指導に努める。

○一斉授業における配慮

- 言葉の意味や学習の内容等をより具体的にイメージしやすいように、絵や写真、イラスト等の準備をする。
- フラッシュカードやかけ算九九表、ローマ字表等の補助的教材を準備し、必要に応じて活用する。

○個の特性に応じた支援例

【読むことへの支援】
- １行だけ見えるように切り抜いたシートを準備する。
- 文字の形を捉えやすくするために、絵カードを使って形の意味づけを行う。
- まとまりを言葉で捉えるために、フラッシュカードですばやく読み取る練習を取り入れたり、キーワードに印をつけたりする。

【書くことへの支援】
- マス目の大きいワークシートや拡大コピーしたものや使いやすい道具等を準備し、必要に応じて選択できるようにしておく。
- 文字の形を捉えやすい絵や語呂合わせ等のヒントが書いてあるカードを準備する。

【計算することへの支援】
- 計算の手順を言語化したカードや手順書を活用する。
- 問題数や習熟度に配慮したワークシートを作る。
- 計算の意味づけを行う具体物や半具体物を活用する。
- 筆算がしやすいマス目や枠のあるワークシートを準備する。

学習に取り組みやすい教室環境をつくる

児童生徒が学習に集中し、学びやすい環境を整えるためには、教室内が分かりやすく整理整頓されているとともに、情報量が精選されていることが大切です。

特別な支援を必要とする児童生徒は、必要な情報を適切に選択したり、注意を持続したりすることが苦手です。学習に取り組みやすい教室環境をつくることはとても重要な支援です。

【教室環境の工夫参考例】

- □ 黒板の周りの掲示は必要最小限のものに限定している
- □ 教室前面の掲示を学校で共通理解し統一している
- □ 時間割、一日のスケジュールを掲示している
- □ 一週間、一ヶ月のスケジュールを掲示している
- □ 個人ロッカーや机の中の整理整頓を習慣づけしている
- □ みんなで使うものの置き場所や置き方を決めている
- □ 提出物や宿題を出すコーナーが固定されている
- □ 教師机の上に必要なものをだけを置いている
- □ 学級や学年のルールを掲示している
- □ 係活動や当番活動のコーナーがある
- □ 机やいすの消音、防音がなされている
- □ 児童生徒の実態に応じた座席の配慮や工夫をしている

① そうじ当番　② みんなで使う場所　③ 提出コーナー

①

②

③

Ⅳ 支援体制づくり

～学級経営を支えるチーム支援体制を目指しましょう～

校内体制づくり

児童生徒が安心して過ごせる学級集団をつくっていくためには、担任をはじめ教師一人一人が学級経営を支える一員であることを自覚し、学校全体で通常の学級の担任を支援する体制をつくることが大切です。

学級集団の状態等を踏まえながら、児童生徒の特性を適切に把握し、二次的な障がいを起こさないように早めの対応を行うこと、また問題が起きた時には迅速な対応ができるように、チームで取り組む体制づくりを進めることが必要です。

担任一人で抱え込むことがないように、学年や学校全体で日常的に情報交換等を行いながら、学級経営を支えていく体制づくりを目指します。

保護者との信頼関係づくり

保護者は、児童生徒にとって最も身近な支援者です。学校と保護者の信頼関係を築き、よりよい連携を図ることが、児童生徒の発達や成長を支えます。

保護者に対して日常的に児童生徒のよいところや伸びてきたことを伝え、保護者の安心感や学校への信頼感を高めていくことが大切です。特別な支援を必要とする児童生徒の場合、保護者自身が子どもの実態をどのように捉え関わったらよいか、子育ての不安を抱えていることもあります。児童生徒のよさを伝えるとともに、保護者の不安な気持ちに寄り添いながら、どのように関わっていくとよいのか話し合い、担任を中心としながら学年や学校全体で取り組んでいることを伝えていくことが必要です。

その上で、今後さらに「どのような支援が必要なのか」等について話し合い、個別の教育支援計画等を活用し目標の確認や評価を行いながら、一貫した支援を継続していきます。

関係機関との連携

一貫した支援を継続していくためにも、また、児童生徒の特性の理解を深めていくためにも、関係機関と連携していくことは大切です。

特別な支援を必要とする児童生徒一人一人のニーズに対応するために、どのような関係機関（医療・保健・福祉・特別支援学校等）や専門家等（医師・臨床心理士・スクールカウンセラー・LD 等専門員等）との連携が必要なのか、把握しておくことが必要です。

（参照：「小・中・高等学校における特別支援教育の進め方　みんなで支援 改訂版（鳥取県教育委員会）」）
http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/430163/sien3.pdf

学級経営チェックリスト

本誌で述べてきた通常の学級における学級経営において、児童生徒一人一人が安心して過ごせる学級集団づくりを進めるための観点をチェックリストとしてまとめています。教師一人一人が学級経営を支える一員であることを自覚しながら自己の振り返りに活用してみましょう。

【教師の児童生徒理解】

- □ 児童生徒の好きなことや興味・関心のあることを把握している
- □ 児童生徒の得意なことと苦手なことの両面を把握している
- □ 児童生徒の気になる言動の要因・背景を見つけようとしている
- □ 日頃から児童生徒の気持ちを聞いている
- □ 取組の過程における児童生徒の変容や努力を評価している
- □ 学級以外の活動の情報収集に努めている
- □ 児童生徒が学級内で認められる場を設定している

【認め合い支え合う人間関係づくり】

- □ 学級や学年のルールづくりを工夫している
- □ 人間関係づくりを学ぶ機会や場を設定している

【授業づくり】

- □ 見通しや意欲が持てる授業の構成をしている
- □ 指示や発問等、具体的な話し方を工夫している
- □ 視覚支援を取り入れた授業をしている
- □ 板書計画を立て、見やすい板書に心がけている
- □ 机間指導の際に、児童生徒一人一人に対して評価を行っている
- □ 個に応じたワークシート等の教材・教具を準備し活用している
- □ 教室環境の整備のチェックを行っている（P12「教室環境の工夫参考例」を参照）

【支援体制づくり】

- □ 困った時に校内に相談できる人がいる
- □ 校内で支援の共通理解がなされている
- □ 保護者に児童生徒のよいところや伸びてきたことを伝えている
- □ 関係機関と連携し、支援に生かしている

【参考文献】
◇小学校学習指導要領解説総則編　（文部科学省 東洋館出版社）平成 20 年
◇中学校学習指導要領解説総則編　（文部科学省 ぎょうせい）平成 20 年
◇小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究
（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 重点推進研究）平成 22 年
◇ LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド
（独立行政法人国立特殊教育総合研究所 東洋館出版社）平成 17 年
◇ここがポイント学級担任の特別支援教育～個別支援と一斉指導を一体化する学級経営～
（河村茂雄編著 図書文化社）平成 17 年
◇特別支援教育を進める学校システム～チームで学級経営を支える校内体制づくりの実際～
（河村茂雄・高畠昌之著 図書文化社）平成 19 年
◇ Q-U による特別支援教育を充実させる学級経営　（河村茂雄編著 図書文化社）平成 18 年
◇学級崩壊予防・回復マニュアル　（河村茂雄著 図書文化社）平成 12 年
◇＜教室で気になる子＞LD、ADHD、高機能自閉症児への手立てとヒント　（黒川君江編著 小学館）平成 17 年
◇発達障害の子がいるクラスの授業・学級経営の工夫（小島道生・宇野宏幸・井澤信三編著 明治図書）平成 20 年
◇ LD、ADHD などの子どもへの場面別サポートガイド～通常の学級の先生のための特別支援教育～
（高橋あつ子編著 ほんの森出版）平成 16 年
◇ 3 ステップであんしん 気になる子への対応術　（会沢信彦 / 曽山和彦編集 教育開発研究所）平成 20 年
◇通常学級の授業ユニバーサルデザイン～「特別」ではない支援教育のために～
（全日本特別支援教育研究連盟 日本文化科学社）平成 22 年
◇発達障害の子どもとあったかクラスづくりー通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザインー
（高山恵子編 明治図書）平成 21 年
◇グループ体験によるタイプ別！学級育成プログラム小学校編　（河村茂雄編著 図書文化社）平成 13 年
◇グループ体験によるタイプ別！学級育成プログラム中学校編　（河村茂雄編著 図書文化社）平成 13 年
◇特別な支援を必要としている児童・生徒のために　（東京都教育委員会）平成 20 年
◇通常の学級における特別支援教育　（栃木県総合教育センター）平成 20 年
◇“通常の学級における”「特別支援教育」の視点を取り入れた授業づくり　（岡山県教育委員会）平成 22 年
◇通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり　（岡山県総合教育センター）平成 21 年

【「障害」の表記について】
従来、「障害」と表記していたものについて、県では基本的に「障がい」と表記することとしました。
本誌では、法令等の名称や法令等に規定する用語、著作物の引用においては「障害」と表記をしています。
その他の場合においては、医学用語等の専門用語であっても、意味が失われたり、誤解されたりするおそれがある場合以外は、原則として「障がい」と表記しています。

通常の学級における特別支援教育～小学校・中学校編～
編集者　鳥取県教育委員会事務局